

15. 排尿訓練指導における一考察 効果を高める方法について

5階西病棟

藤村 洋子 千谷 稜 山岡 和子
久藤 二美 山田 美恵 他スタッフ一同
松村 真智子 ○小松 真由三

I はじめに

肝疾患を主とする当内科病棟では、肝生検及び腹部血管造影等の検査が頻繁に行われており、原則として検査後20時間程度の臥床安静が取られている。最近当病棟で、肝生検後の床上安静に対する苦痛についてアンケート調査を行ったところ排尿困難に対する苦痛が高位を占めた。私達は臥床痛や排尿困難緩和の為、肝生検に関しては、検査後4時間以降の一時的左側臥位を医師と交渉し、了承を得る等の工夫をしたが、今回さらに、検査前の排尿訓練につき再考したのでその結果をここに報告する。

II 研究目的

排泄とは、人間の基本的欲求の主要な柱でもあり、また、それが他人を介する事で多大な羞恥心を伴うものである。その為、単に、検査前に何回も排尿訓練を行っても、検査後順調な排尿を得ることができないケースも多い。そこで私達は、従来、看護婦が個々に行っていた指導方法の統一を図り、排尿訓練の効果を高め、検査後の順調な排尿を確保する方法について検討した。

III 研究方法

1. 肝生検施行患者全員に検査を通じての苦痛についてアンケート調査した結果を再考した。
2. 排尿訓練チェック表を作成し、実施した。

チェック項目 ①訓練回数 ②訓練した時間帯 ③成功率 ④排尿訓練時の体位・方法

3. 上記訓練患者に、検査後の排尿状態に関して指示的面接法にて聞き取り調査を行った。
4. 昭和54年に発表された宮井，上田氏，昭和49年の齊藤氏の看護研究を参考に一部検討を加え使用した。

IV 結果及び考察

次の5項目について述べていく。

1. 検査前排尿訓練の効果
2. 環境及び時間的因子
3. 訓練開始時期
4. 精神的因子
5. 排尿介助者の条件
6. 検査前排尿訓練の効果

資料Ⅰでは、肝生検施行者49名に対するアンケート結果〔以後(A)と呼ぶ〕と統一した。排尿訓練指導実施者10名の結果〔以後(B)と呼ぶ〕から見た排尿訓練実施者の割合は、(A)61%、(B)100%と増加している。訓練して検査後自尿があった割合は、(A)59%、研究期間以前でも排尿訓練効果は認められているが、(B)90%と、今回の訓練ではさらに増加している。訓練効果の点で言えば、齊藤氏も述べているように、明らかにここでも認められている。全体から見て検査後自尿があった割合は、(A)71%、(B)90%と増加している。

また資料Ⅱでは、練習前は流出状態が悪いが検査後良好になっている。(A)(B)比較すると、訓練効果は今回チェックしながら個々に指導したことで上昇している。今後は統一した排尿訓練指導と、経過をチェックしながら、個別的に指導していくことが重要と思われる。

2. 環境及び時間的因子

環境は資料Ⅱで見ると、総室，個室を問わず，訓練効果に影響が少ない。私達は，他人がいない環境がもっとも適していると思っていたが，宮井氏も述べているように，「総室，個室の別は訓練効果に影響しない。」と考えられる。当院は患者1人当たりの占める病室面積が広く環境条件に恵まれていることも考

えられる。また、資料ⅠのCを参照すると、訓練時刻は、6時、16時、21時が多く、午前中少なくやや午後多くなっている。訓練時は、膀胱に尿が充満している時間を選ぶよう指導したが、それに加えて患者個々の入院生活リズムに合わせて行っていることがわかる。

3. 訓練開始時期

訓練指導開始時期は平均して1週間前であったが、実際に患者が訓練を開始した時期は、4日前からが多かった。この結果から見て、宮井氏も述べているように、「術前排尿訓練指導は術前7日前より開始して、2・3日前に再指導すれば指導効果が高められ、これは指導される側、指導者側共、切実感を抱く為と考えられる。」という意見に私達も賛成する。

4. 精神的因子

H・N氏の場合、前回訓練せず、導尿した経験があった為、今回積極的に訓練し、訓練での成功率も高かったが、検査後第1回目の尿意時、本人が尿器をあてている時、看護婦が、「出ましたか。」と声をかけた為緊張し、以後10時間以上自尿がなかった。これは精神的に緊張することにより、交感神経が優位に立ち、副交感神経が抑制されることにより、排尿が抑制される為と考えられる。また、資料Ⅱでは、検査前訓練による効果があると思った人が自尿が得られやすかった。訓練により、検査後自尿が順調に得られるという暗示を与えることも、検査後自尿を容易にする因子ではないか考える。

5. 排尿介助者の条件

排尿介助者としては、看護婦より家族の方が残尿感が少なく、スムーズに自尿が得られている。これは、(A)(B)共に言えることである。高齢者の場合は、症例が少ないが、看護婦でも比較的スムーズに自尿が得られている。また、訓練拒否者は若年者であり、高齢者や女性は訓練時、看護婦介助を受けいれやすいが、若年者ことに男性は、看護婦介助を拒否する傾向にあり、訓練時の排尿状態を確認しにくい。上田氏も述べているように「排泄介助を気苦勞なくしてもらえる人として若年者は、家族と答えた者が多く、高齢者は、軽度ながら看護婦と答えた者が多い。」という傾向が、ここでも見られている。高齢者程

人生経験も豊富で羞恥心が少ない傾向にあり看護婦による排尿介助はスムーズに行いやすいと考えられる。また、当病棟看護婦の平均年齢が若いことも、より若年男性患者が羞恥心を強く持つ原因となっていると考えられる。

V 結 語

1. 検査前排尿訓練の効果

検査前排尿訓練は統一された指導内容で進行状態をチェックしながら、個別性を持って指導することでその効果は増強される。その為私達は、看護婦の排尿訓練手引を作成し訓練チェックリストを再考した。これを活用し、個々に応じた指導を行っていきたい。

2. 環境及び時間的因子

総室であることは、必ずしも訓練を妨げないが、同室者への配慮も必要である。又、個々の生活リズムに合わせた訓練を進めていく必要がある。

3. 訓練開始時期

1週間前から指導を開始しても、4日前には、個々の訓練を見直して確実に訓練が実施されるようにする。

4. 精神的因子

排尿は精神的影響が大きく精神的負担の緩和が重要となる為に、排尿介助に対しては時間的余裕を与え、個々に排尿しやすい条件を整える。その為にも看護婦と患者との人間関係を良くする事など必要である。又、訓練すれば検査後スムーズに自尿が得られるという暗示を与えることも効果的である。

5. 排尿介助者の条件

若年者に対しては、剃毛、排尿訓練、検査後の排尿介助等、羞恥心の強いことは同一看護婦、できれば受持ち看護婦が継続してあたるよう配慮し、信頼感が得られるようなコミュニケーションの取り方が必要と考える。なお、高齢者は比較的訓練の受け入れも良く、看護婦介助にて自尿の得られる確率も高いので、確実に訓練することが重要である。このようなことから、私達は排尿訓練を効果的に行う方法として次のことをあげた。

①訓練指導の統一を図る。②進行状態をチェックしながら指導する。③患者

個々の生活リズムに合わせた訓練を行う。④訓練開始時期を考慮する。⑤排尿に対する精神的負担を軽減する。⑥介助者が被介助者の信頼を得る。⑦訓練すれば、スムーズに自尿が得られるという暗示を与える。

VI おわりに

今回は排尿訓練を行う上で、その効果を高める方法について報告したが、研究症例が少なくより確実な結果を導くには至らなかった。しかし、今回の看護研究を通して、排尿訓練再検討の足がかりをつかんだことは、有意義であり、今後さらに排尿訓練チェックリストを改善し、これからの指導に役立てて行きたい。

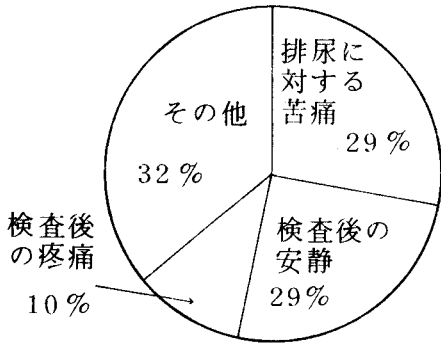
<参考文献>

- 1) 上田孝枝他：床上排泄における患者心理の傾向，第10回日本看護協会集録，成人看護分科会，1979年
- 2) 宮井千恵他：手術前排尿練習および手術後排尿状態に関する調査，第10回日本看護学会集録，成人看護分科会，1979年
- 3) 斉藤さよ子他：術前のベッド上排尿練習の効果について（第1報），第5回日本看護学会集録，成人看護分科会Ⅱ，1974年
- 4) 小坂信子他：術前排尿訓練に関する一考察，第5回日本看護学会集録，成人看護分科会Ⅱ，1974年
- 5) 嶋井和也他：目で見える人体生理学，廣川書店，1976年
- 6) 氏家幸子：基礎看護技術，医学書院，1982年

資料 I

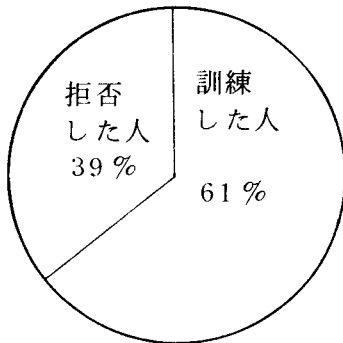
A 肝生検施行者 49 名に対するアンケート結果より

① 何が苦痛であったか (解答率 60%)

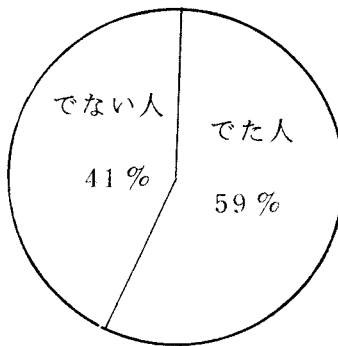


② 排尿訓練率とその検査後の成功率

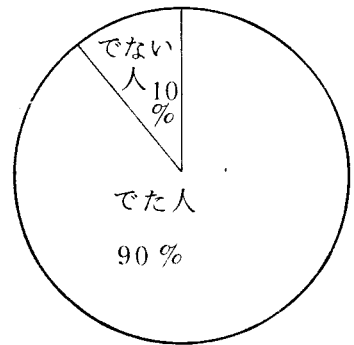
a. 排尿訓練率



b. 訓練した者

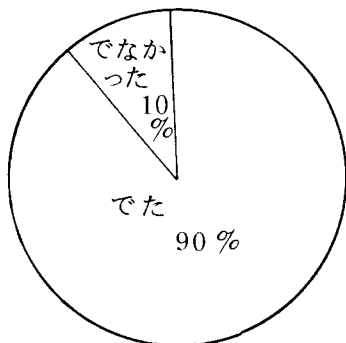


c. 訓練しなかった者

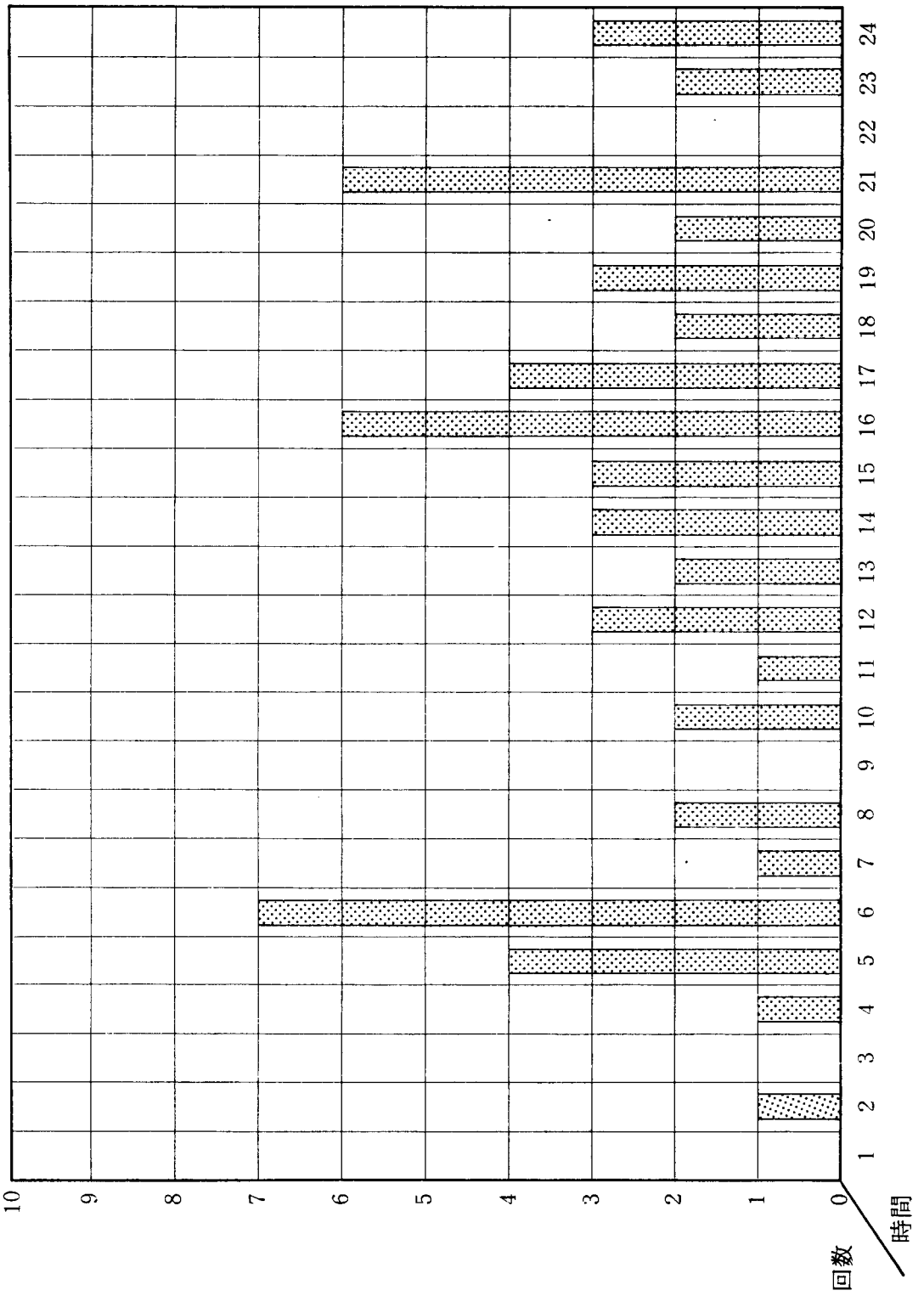


B 統一した排尿訓練指導実施者 10 名の結果

訓練した者の成功率



資料 I
C 排尿訓練時間



資料Ⅱ 統一した排尿訓練指導実施者10名の結果

	H·N	S·T	S·K	A·N	K·T	M·K	T·T	S·Y	S·I	S·Y
性別	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♀	♀	♀
年齢	35	38	39	52	59	75	77	64	68	62
床上排せつの経験	×	×	×	×	○	×	×	○	○	×
練習開始日(何日前)	4	2	2	6	1	4	4	6	2	7
環境(総室・個室)	総	総	総	個	総	総	総	2人個	2人個	総
成功率	6/7	3/3	2/2	13/17	1/1	6/6	10/10	4/6	2/3	3/3
練習時第1回排尿	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○
体位	坐位	水平	水平	30度	水平	水平	水平	水平	7/2-1位	水平
残尿感	-	-	+	+	-	+	-	-	+	+
流出状態	×	○	×	×	○	○	○	×	×	×
流出迄の時間(分)	10~20	5~10	4~5	30以上	2~3	1	1~2	5	5~6	7
練習後第1回排尿(cc)	1,000	450	300	200	350	不明	300	導尿	5	350
残尿感	+	-	+	-	-	+	-	-	+	-
流出状態	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○
流出迄の時間(分)	長時間	10	1	数秒	2~3	3	30秒	数秒	数秒	1
介助者	なし	妻	Ns	妻	妻	Ns	妻	娘	夫	Ns
練習して出ると思ったか	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○
練習して良かったか	○	○	×	○	△	○	○	×	○	○

※腎機能として、PSP、血中・尿中クレアチニン、BUN、24hクレアチニンクリアランス、蓄尿量、PH、比重とBPHの有無を調べたが全員正常範囲内であった。